

令和元年度
木の国・山の国県民会議
各専門部会の取組状況

令和元年度専門部会の取組状況

部会名	森づくり部会	担当	森林整備課 整備係
部会長	篠田 成郎		
構成員 (所属名)	篠田 成郎 <部会長> (岐阜大学教授) 山川 弘保 <副部会長> (林業家・郡上市民病院医師 副部会長) 河尻 和憲 (一般社団法人岐阜県林業経営者協会理事) 長瀬 雅彦 ((一社)高山建設業協会理事、たかやま林業・建設業協同組合専務理事) 細江 広仲 (南ひだ森林組合代表理事組合長) 宮崎 英伸 (岐阜森林管理署長) 毛利 理恵 (有限会社大原林産取締役) 山田 輝幸 (一般社団法人岐阜県森林施業協会副会長)		
今年度計画	1 R1年度検討事項 (1) 新たな森林管理システムについて		
	2 検討事項の具体的取組み (1) 新たな森林管理システムを進めるうえでの課題の整理 (2) 森林管理を担う組織や仕組みづくりの検討		
実施状況	3 取組状況 ■第1回 (令和元年9月12日 (木) 開催) ○岐阜県における新たな森林管理システムの仕組みとその構築 【主な意見】 <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県の各地域の実情に沿った森林管理を進める必要がある。 ・地域に応じた仕組みづくり、体制づくりが必要である。 ・体制の構成要素と役割を明らかにすべきである。 ・全体として人材育成が必要である。 ■第2回 (令和元年11月27日 (水) 開催) ○市町村における森林経営管理制度の取組み状況 ○各市における具体的な取組み状況の紹介 【主な意見】 <ul style="list-style-type: none"> ・先進的な取組みをしている市とそうでないところの格差がある。 ・管理や計画作成を任せられる組織があるとよい。 ・組織には、市のことを把握していて任せられるような、地元精通した人がいるとよい。 ・市民に関心を持ってもらうことが必要である。 ■第3回 (令和2年2月4日 (火) 開催) ○岐阜県における新たな森林管理の進め方 ○令和年度森づくり部会の取りまとめ 【主な意見】 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな森林管理システムは、市町村が主体となって実施するが、取組みが進まない市町村に対する支援策が必要である。 ・市町村が計画作成や管理を委託できる新組織の創設を提案する。 ・市民の意識向上を高めるため、シンポジウム開催を通じた普及啓発活動を推進する。 		
	4 取組結果 部会として以下の事項を提言 ○森林の管理や計画作成を任せられる組織の創設 <ul style="list-style-type: none"> ・市町村が計画作成や管理を委託できる組織の創設。 ・圏域単位等でシンポジウムを開催し、市民の森林管理に対する理解促進を図る。 		
今後の課題	5 今後の課題 ○第4期森林づくり基本計画に向けた施策の提言 ○森林環境譲与税を活用するにあたってのアドバイス		

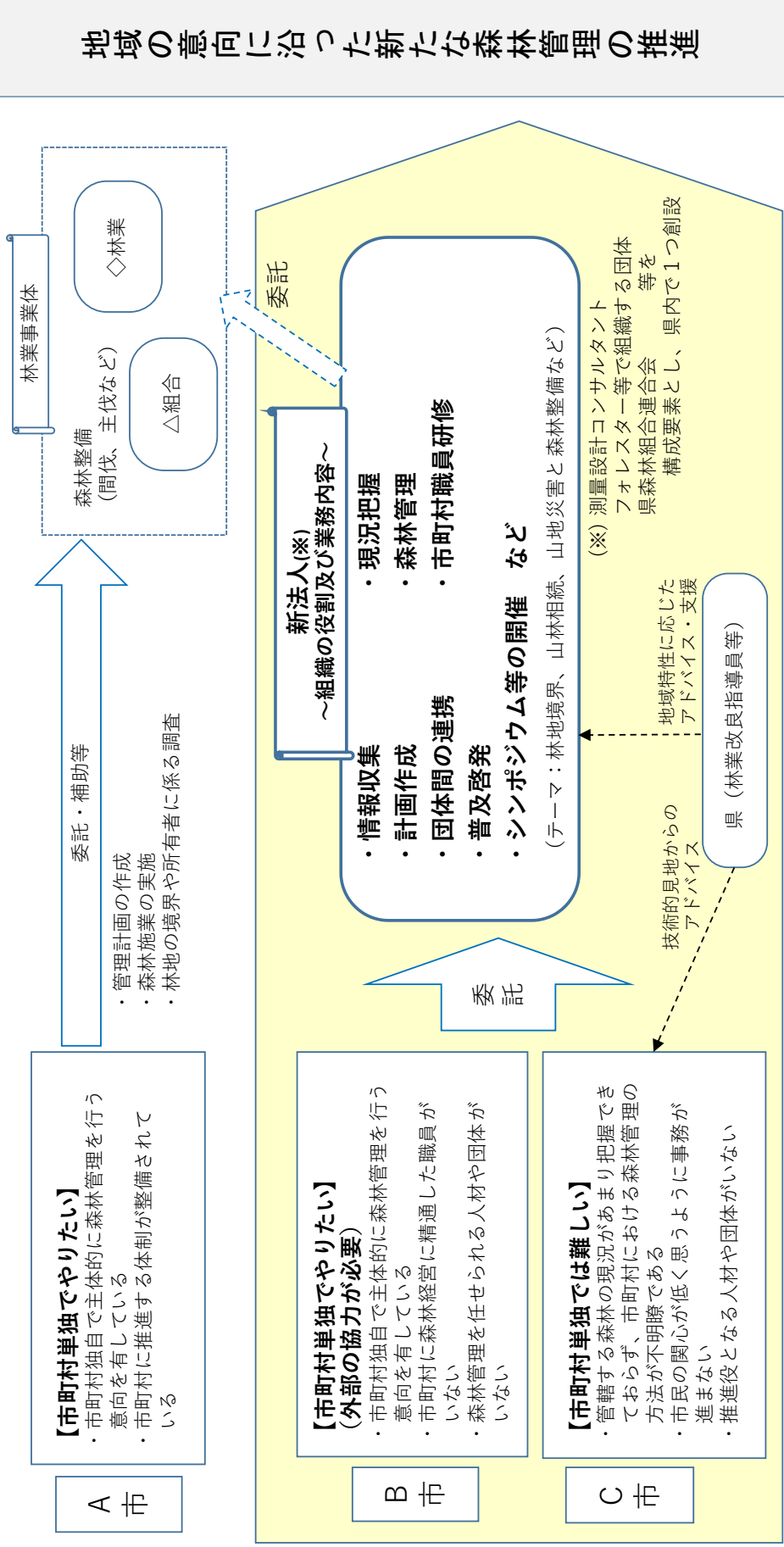
令和元年度森づくり部会検討テーマ「岐阜県における新たな森林管理システム」

【森づくり部会提言内容】

地域の意向に沿った新たな森林管理を進めるために、以下の事項を提案

- 新法人の設立：市町村が必要に応じて森林づくりに係る計画策定や管理を委託できる新たな法人組織を創設する
(測量設計コンサルタント会社、フォレスト会社、フォレストター等で組織される団体、県連などから構成される組織)
- 新法人を活用して、圏域単位のシンポジウム等を開催し、県民や土地所有者の森林管理に関する理解を深める
(テーマの例：林地境界調査、山林相続、森林整備による山地災害の抑止、材木価値など)

※今後は、市町村の個別の特徴や事情に合わせた課題解決指針として、第4期森林づくり基本計画に対する施策提言を検討する



令和元年度専門部会の取組状況

部会名	木づかい部会	担当	県産材流通課 販路拡大係
部会長	山田 貴敏		
構成員 (所属名)	山田 貴敏 <部会長> (笠原木材株式会社代表取締役社長) 桂川 麻里 (有限会社アサイ設計 建築士) 川合 千代子 (水環境もやい研究所代表) 中島 由紀子 (NPO法人グッドライフ・サポートセンター事務局長)		
今年度計画	R元年度検討事項 ・ 県産材利用拡大への取り組みについて		
	検討事項の具体的取り組み ・ 東京オリンピック・パラリンピックを契機とした県産材の販路拡大について		
実施状況	<p>■ 第1回 (令和元年10月23日 (木) 開催)</p> <p>○ 検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選手村ビレッジプラザ提供木材の後利用 ・ 大都市圏における県産材の販路拡大に向けた取り組み <p>○ 「ぎふの木づかい施設」 選定</p> <p>○ 第1回ぎふの木の家フォトコンテスト 2019 (工務店部門) 二次審査</p> <p>【主な意見】</p> <p><選手村ビレッジプラザ提供木材の後利用について></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 駅前などの人が多く集まる場所で、観光施設として活用してはどうか。 ② 返却木材を県がすべて利用する場合は、建物建設に利用する方がレガシーとして残りやすい。 <p><県産材の販路拡大について></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 森林の持つ様々なサービス機能をもっと開拓することで木材の付加価値の向上につなげる。 ② 大都市圏などの大きな需要が見込める場所での状況を調査と併せ、「森林を活かす都市の木造化推進議員連盟」への働きかけを検討する。 <p>■ 第2回 (令和2年3月2日 (月) 書面開催)</p> <p>○ 検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度予算 (案) ・ 県産材を利用した公共建築物等の企画・設計アドバイザー派遣制度の創設 (素案) <p>○ 第2回ぎふの木の家フォトコンテスト 2019 (工務店部門) 二次審査</p> <p>【主な意見】</p> <p><令和2年度予算 (案) について></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 選手村ビレッジプラザ提供木材について、各市町村と調整のうえ未来に向けた活用を検討してほしい。 ② 県産材の地産地消に向けた取り組みもすすめてほしい。 ③ 女性や若者も働きやすい環境を整えるためにも高性能林業機械のレンタルやICTの導入は必要不可欠である。 <p><企画・設計アドバイザー派遣制度について></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 木造建築マイスターが活躍できる場を創ることで、木造住宅アドバイザーなどのスキルアップにつながる制度の周知方法や問題点などの具体的な検討が必要である。 ② 既に別の相談員派遣制度では、一部の相談員の負担が大きくなっていることから、そうならないようにしてほしい。 <p>取組結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 選手村ビレッジプラザ提供木材の後利用について意見交換を行った。 ② アドバイザー派遣制度など、公共施設等のさらなる木造化・木質化の方法について意見交換を行った。 ③ 県産材を使用し、意匠性・新規性の高い5施設を「ぎふの木づかい施設」として認定し、県ホームページで広く周知した。 ④ 県産材住宅の魅力を伝える写真として10点を選定し、ポスターやパンフレットなど県産材利用拡大のPRツールとして活用する。 		
今後の課題	・ 非住宅分野・大都市圏での県産材の利用拡大に向けた取り組みについて検討する。		

令和元年度専門部会の取組状況

部会名	普及・教育部会	担当	恵みの森づくり推進課 管理調整係
部会長	伊藤 栄一		
構成員 (所属名)	伊藤 栄一（特定非営利活動法人 森のなりわい研究所代表理事） 飯田 潤子（岐阜県小中学校女性校長会長） 加藤 正吾（岐阜大学応用生物科学部准教授） 川合 千代子（水環境もやい研究所代表） 清水 佳子（特定非営利活動法人 長良・自然とくらし楽校副理事長） 田中 露美（岐阜県生活学校連絡協議会副会長） 中島 由紀子（特定非営利活動法人グッドライフ・サポートセンター事務局長） 三輪 やよい（一般財団法人 岐阜県地域女性団体協議会副会長） 山崎 昌彦（公募委員）		
今年度計画	1 令和元年度検討事項 <input type="checkbox"/> 「(仮称) 森林総合教育センター」について <input type="checkbox"/> 「ぎふ木遊館」について <input type="checkbox"/> 林業の担い手確保・育成対策について		
	2 検討事項の具体的取組み <input type="checkbox"/> 「(仮称) 森林総合教育センター」のオープンに向け、主に森林教育プログラムに係る意見をいただく。 <input type="checkbox"/> 「ぎふ木遊館」のオープンに向け、施設運営及び木育プログラムに係る意見をいただく。 <input type="checkbox"/> 「森のジョブステーションぎふ」の取組みに係る意見をいただく。		
実施状況	3 取組状況 ■第1回（令和元年9月9日（月）開催） ① 「(仮称) 森林総合教育センター」について 【主な意見】 <ul style="list-style-type: none"> ・県内には、自然とのかかわりを学ぶ学校教育に取り組んでいる個人、団体が既にある。その方たちともしっかり連携を図って理解をしてもらえるような仕組みづくりをしていく必要がある。 ・森林教育プログラムに係る取り組みには人材の育成が欠かせないため、指導者育成にも力を入れてほしい。また、県内各市町村の教育委員会にもアプローチしてほしい。 ・県内のいろいろな学校が施設を利用できるとよい。生活、社会、理科、総合的な学習、キャリア教育など、多くの分野で連携が可能である。 ② 「ぎふ木遊館」で体験できる木育、木育プログラムについて 【主な意見】 <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム全体の内容については、現段階で提示されているものと、開館後に提案して組み込めるものがあつたほうがよい。 ・木育ひろばについて、支援学校・支援学級にも対応できるように、車いすのままでも入れるような、サポート体制をつくるべき。たくさんの人に木に触れてもらいたいので、教育委員会にも投げかけて欲しい。 ・民間の人材をどう活用するか、どう企画の中に入れ込めるか。民間に委託する場合、意見を言い合せて、一緒に作り上げていけるようにしていくべき。 ■第2回（令和2年2月14日（金）開催） ① 「ぎふ木遊館」について（※現地視察を実施） 【主な意見】 <ul style="list-style-type: none"> ・幅広くいろいろな方に利用してもらえるように、子どもだけでなく大人や高齢者の方にも施設について上手く周知していく必要がある。近隣の施設とも連携し、観光の拠点の1つとして、岐阜の魅力を発信する場所にしてほしい。 		

- ・くすみやどんぐりなどの森の恵みを食べる体験や、館内に掲示してある木を実際に森に見に行く体験など、イベントをたくさん実施していくべき。
- ・ソフト面である施設運営がこの先最も重要となるため、多くの知恵を結集し、様々なものを取り込んでいける仕組みづくりが必要。

② 「森のジョブステーションぎふ」の取組みについて

【主な意見】

- ・就業対策として、林業に興味や憧れを持つ子どもを育てるために、より若い時期に林業を知るという機会づくりが必要である。
- ・「森のジョブステーションぎふ」だけでなく、「ぎふ木遊館」や「(仮称) 森林総合教育センター」での林業のPRや、森に対する多様なジョブがあるということを意識して情報の収集・発信をしていく必要がある。

4 取組結果

- ・「ぎふ木遊館」及び「(仮称) 森林総合教育センター」の実施プログラムについて理解が得られた。
- ・「ぎふ木遊館」をどう活用していくかが課題であり、まずはその良さを発信し、知ってもらうことが必要との意見があった。
- ・林業の担い手確保・育成に向けて、「森のジョブステーションぎふ」が取り組んできた事業内容を紹介し、概要について理解が得られた。

今後の課題

5 今後の課題

- ・開館後の「ぎふ木遊館」と「森林総合教育センター (morinos)」の連携。
- ・「ぎふ木遊館」の運営方法について、様々な意見を取り入れ、ブラッシュアップしていく仕組みづくり。
- ・子どものうちから林業に興味や憧れを持てるような魅力を伝え、知ってもらえるための仕組みづくり。